

特長ある水路の建造物

7 第1号幹線水路の1号水路橋

加東市黒谷の交差点からダムへ上がる道の西側に、水路橋が見えます。その水路の幅は1.8m、高さは1.7m、長さは62mもあります。第1号幹線水路には同じタイプの水路橋がもう1つあります。



8 第1号幹線水路のトンネル

第1号幹線水路の延長3.8kmのうち、2.2kmがトンネルです。その下幅は1.9mで、高さが1.9m、上幅の直径は1.1mです。トンネルの傾きは1/1500です。この水路を、毎秒3.19m³の水が流れていきます。途中キビ谷池、天神大池に分水します。トンネルが多いのは、この辺りに溪谷や河川、幹線道路があるためです。



9 米田分水工

米田分水工は東条川用水の水を千鳥川沿いの農地へ送るための分水施設で、射流分水という方式が採られています。この方式は、分水地点で水路底に堰を設けて傾斜による速い流れを作ることによって下流水路の流れの影響を断ち、用水量を所定の分水比により正確に分配できるものです。

米田分水工より下流は第2号幹線水路となり、延長4kmのうち2.5kmがトンネルとなっており、中国自動車道をめぐり安政池付近までの区間となります。



10 嬉野分水工

この分水は第2号幹線水路の末端部で、第3号幹線水路と嬉野線に分かれています。このすぐ向こうに、安政池に配水する分水もあります。第2号幹線水路の中は3.1m、深さが1.7mあり、毎秒3.14m³の水が流れています。



11 曾根サイフォン

第3号幹線水路延長3.8kmのうち、東条川用水最大の曾根サイフォンは内径94cm延長1087mに及ぶスチールパイプで、東条川を横断し小野市曾根町内は地下埋設されています。毎秒1.3m³の水が加東市松沢の山腹から小野市曾根町の山腹まで管内を一気に流れます。



12 船木池分水工

この分水工は第3号幹線水路と第4号幹線水路の接続地点にあり船木池に分水します。直進する水は第4号幹線水路を通り、県営小野線につながり、途中から市場線に分かれその下流で代行小野線へと流れていきます。県営市場線の水は小野市榊町まで流れています。



13 六ヶ井円筒分水

六ヶ井円筒分水(外径 14.7m、内径 4.0m)は、流れてくる用水を公平に配分する施設です。東条川下流部にあった6つの井堰が1965年(昭和40年)の洪水で被害を受け、統合して新しく六ヶ井頭首工が造られました。鴨川ダムの水は、いったん安政池に蓄えられた後、東条川を経由し、六ヶ井頭首工にたどり着きます。六ヶ井頭首工で取水した水を6つの井堰の受益地へ公平に配分するために、円筒分水という方式が採用されました。東条川右岸の受益地域には、円筒分水で用水が分けられた後、東条川の下をサイフォンでくぐって送られます。

